

## 平成26年度 包括外部監査結果報告について

### 1 監査テーマ

観光・創造都市戦略の推進事業に関する財務事務の執行について

### 2 テーマ選定理由

中期4か年計画の成長戦略の1つである観光・創造都市戦略の重要性を鑑み、各事業が賑わいと活力にあふれる「選ばれる都市」の実現に寄与していることを確かめるとともに、法令等に基づき適正に執行されているか、経済性、効率性及び有効性をもって行われているか等について監査を実施することが必要であると認めたため。

### 3 監査の結果等（詳細は別添結果報告書のとおり）

事業は、おおむね適正かつ効率的に執行されていると認められたが、課題も見受けられた。その内容を**結果**（措置が必要と認められる事項）12件、**意見**（改善を要望する事項）79件にとりまとめた。

#### (1) 対象部局及び期間

##### ア 対象部局

文化観光局  
公益財団法人横浜市芸術文化振興財団  
公益財団法人横浜観光コンベンション・ビューロー

##### イ 対象期間

原則として平成25年度（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで）  
ただし、必要に応じて平成24年度以前及び平成26年度の執行分を含む

#### (2) 包括外部監査の主な結果及び意見（結果2件、意見3件を抽出）

##### ア 結果

#### (7) 国内誘客事業の各事業の真に必要な経費の額を把握することが必要（P106）

国内誘客事業は、横浜観光コンベンション・ビューローに補助金を交付して行っているが、事業に要した経費の中に、本来、他の事業に負担させるべき経費や、客観的な基準なく負担している共通経費等が含まれている。

これは、各事業での真に必要な経費の額を把握し難くする結果となること等の点で適切とは言えない。補助事業に要した経費の算定では、客観的な基準を設けた上で間接的経費や共通経費を配賦する必要がある。

#### (4) 横浜美術館の収蔵品について、所有者である横浜市の管理原簿と現場管理を行う指定管理者（横浜市芸術文化振興財団）側の収蔵品管理用データベースとの整合性を定期的に確認することが必要（P167）

平成20年度以降、横浜市から指定管理者に管理原簿が送付されていない。横浜市の管理原簿と、指定管理者側の収蔵品管理用データベースとの整合性を定期的に確認することは重要な手続きであるため、速やかに対応を図る必要がある。

## イ 意見

### (7) ヨコハマトリエンナーレ2014の来場者が21万人にとどまった理由について、今後真摯に検討することが必要 (P67)

ヨコハマトリエンナーレ2014の来場者数は約21万人であり、目標の30万人には到達していない。

総事業費は約10億円、市負担額は約5億円であり、前回比増となっているが、総入場者数は前回と比べて伸びなかったため、入場者一人あたり事業費及び市負担額は増加している。

来場者数に限れば、前回までと比べて有効性・効率性が低いと判断せざるを得ない。この点を受け止めたうえで、事業の総括をし、来場者数を増やすための方策を検討する必要がある。

### (イ) イベントは、変動要素の多い性質の事業であるものの、今後は予算策定の段階から適切な支出科目での見積りが必要 (P78)

「横浜音祭り2013」を主催している横浜アーツフェスティバル実行委員会への負担金は、当初予算は178,000千円であったが、決算額が145,097千円となっている。各プログラムにおける個々の支出項目については予算額と決算額が大きく乖離している。

イベントは、変動要素の多い性質の事業であるものの、今後は予算策定の段階から適切な支出科目での見積りが必要である。

### (ウ) 負担金や補助金の交付先決定の根拠を明らかにすることが必要 (P136)

MICE誘致・開催支援事業の負担金又は補助金は、交付先の決定理由が必ずしも明確ではない。これは、MICEにおけるイベントの対象範囲が整理されているとは言い難いためと考えられる。

MICEのイベントの対象範囲やターゲットを明確にして、個々のイベントを位置づけていくことが求められる。

## お問合せ先

包括外部監査人	井上 光昭	Tel 045-671-3938	(監査結果の内容について)
監査事務局監査管理課長	武島 和仁	Tel 045-671-3354	(包括外部監査制度等について)